

事前評価報告書

Advisory Board Meeting 開催日：平成17年7月28, 29日

評価委員：（敬称略、アルファベット順）

Prof. Masuo Aizawa (Tokyo Institute of Technology), Prof. Fritz Aldinger (Max Planck Institute for Metals Research), Prof. Akio Etori (Edogawa University), Prof. Jean Etourneau (Institut de Chimie de la Matière Condensée de Bordeaux), Prof. Colin Humphreys (University of Cambridge), Dr. Tetsuro Ohashi (National Traffic Safety and Environment Laboratory), Dr. Leslie E. Smith (National Institute of Standards and Technology), Prof. Marcel Van de Voorde (European Commission Research), Dr. Stan Williams (Quantum Science Research, Hewlett-Packard), Prof. Hiroaki Yanagida (University of Tokyo)

課題名	ナノ有機モジュールの創製
研究責任者の所属・氏名	物質研究所 一ノ瀬 泉
【項目】	評価結果
コメント及びアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・世界一流の研究であり、現在は基礎科学であるが、3-5年後には実際に応用の可能性が出てくるであろう。 ・実用化への具体的なロードマップは早すぎるのではないか。可能性が多いプロジェクトであるため、合成と特性評価により注力すべきである。 ・非常に面白い研究なので、今後の展開を期待する。 ・このプロジェクトは特定のセンサーとかデバイスを生み出すかも知れないが、研究の直接的な成果は多様な有機超分子集合体であろう。他の研究がこれら有機超分子集合体を用いて、デバイスを作り上げることを期待する。 ・このプロジェクトは、ナノ/有機材料を主な対象とした想像力に富むプロジェクトなので、ナノ/無機材料を扱うプロジェクトと強く交流すべきである。このことが新機能を持った有機/無機混成ナノマテリアルを作るよい方法である。 ・優れた研究で興味深い。ナノバルブ・アクチュエータは特に創造的である。このプロジェクトには多くの潜在的目標があるので、非常にばらばらな印象になっている。 ・本プロジェクトは極めて重要な研究であるが、残念なことにNIMSの他のプロジェクトとの関係が見えない。 ・国際的な共同研究を推進すべき非常に専門的なプロジェクトである。
評価点	S, S-, A, S, S, A, A, A+, N/A, A+
総合評価点※	A+

N/A=No Answer

※評価点の点数は10(S), 9(S-), 8(A+), 7(A), 6(A-), 5(B+), 4(B), 3(B-), 2(C+), 1(C)とする。総合評価点は評価委員の点数の平均点(小数点第二位以下四捨五入)をXとすると、S:X=10, S-:9≤X<10, A+:8≤X<9, A:7≤X<8, A-:6≤X<7, B+:5≤X<6, (以下同じ考え方)・・・とする。